

NEWS & TOPICS

グループ各社の注目ニュースをお届けします

2023年
1月-4月

CLOSE UP 1

企業情報

3月28日

首都圏200店舗に商品を供給する グループ初の共通インフラ 「Peace Deli 流山キッチン」稼働



■Peace Deli 流山キッチン



セブン&アイHLDGS.の子会社であるPeace Deliは、グループ戦略の一環であるグループ食品戦略を推進するにあたり、2023年3月28日よりグループ初の共通インフラ「Peace Deli 流山キッチン」の稼働を開始しました。グループシナジー3・0(グループ共通インフラの準備・稼働の取り組みなど)の施策として、イトヨーカドー・ヨークの首都圏約200店舗に商品を供給するほか、今後はセブン・イレブン店舗の商品や、イトヨーカドーネットスーパー専用商品の供給も予定しています。

同工場では、生鮮品の加工やミールキットの徹底した品質管理はもとより、販売期限の延長、プラスチック削減など環境への配慮を実現する最新の設備を導入し、高品質・高鮮度で環境にやさしい商品を各店舗へ供給します。

グループの「食」の共通インフラを構築することで、生産性向上による利益面での貢献、お客様の利便性の向上や新たな「食」のニーズに応え、さらなる食品領域におけるグループシナジー創出へ挑戦していきます。

CLOSE UP 2

社会・環境活動

4月10日

完全循環型ペットボトルを採用した 「1(はじめ)」シリーズのラインアップを強化 店舗への回収機の設置もさらに拡大

セブン&アイHLDGS.と日本コカ・コーラ株式会社は、4月10日に、共同企画商品として「1(はじめ) (ジャスミン茶 一日一本) (機能性表示食品) を全国のセブン&アイグループ各店舗で発売しました。すでに「1(はじめ) 緑茶」3品、「1(はじめ) ほろじ茶」3品で完全循環型ペットボトルを採用しているこのシリーズで、さらなる環境配慮の取り組みを推進し、ラインアップを強化。1本当たりのCO₂排出量を約60%削減することが可能になります。

また、セブン・イレブン店舗へのペットボトル回収機の設置も継続し、ペットボトル資源の循環型リサイクル「ボトルtoボトル」を進めています。2022年度は設置エリアを新たに1府11県、1054台に拡大し、総設置台数は2660台、2022年度に回収したペットボトルは、グループ合計で約4億7000万本にのほりました。

今後も再生PET樹脂使用のペットボトル飲料の浸透を進め、循環型社会の実現に向けて努めてまいります。



■完全循環型リサイクルシステムとは

セブン&アイグループ店頭で回収したペットボトルを原材料とした再生PET樹脂を100%用いたペットボトルを使用した商品を、再び同グループ店舗にて販売する、世界初(2019年6月5日時点。日本コカ・コーラおよびセブン・アイ・ホールディングス調べ)のリサイクルシステムです。

受賞

ジャパン・ア・イ・エス・ピー

DJSIアジア太平洋地域の 構成銘柄に食品・日用品小売業種で 日本唯一の選定

「DJSI Asia Pacific Index」は、『Dow Jones Sustainability Indices(DJSI)』の「Asia Pacific Index」の構成銘柄に14年連続で選定されました。DJSIは世界的に著名なESGの指数で、アジア太平洋地域の主要企業を対象とする「Asia Pacific Index」の構成銘柄となった日本企業では、食品・日用品小売業種において唯一の選定となりました。

社会・環境活動

1月26日

イトヨーカドー全店舗で 食料危機緊急支援の募金を贈呈

イトヨーカ堂は、2022年9月より約3カ月間、店頭やWEB募金を通じて、公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンのアフリカカカオ・食料危機緊急支援「プロジェクト」を支援する募金活動を実施しました。寄せられた募金は558万4292円となり、全額を2023年1月26日に同団体へお届けしました。



社会・貢献活動

2月1日

「日本初」専用回収容器を使用した 使用済み食用油の回収と リサイクル実験

イトヨーカ堂は、家庭から出る使用済み食用油(以下、廃食用油)を回収・リサイクルする実証実験を「イトヨーカドーネットスーパー西日暮里店」にて2023年2月より実施しています。廃食用油は、日本全体で年間約10万トンのほり、そのほとんどは再利用されずに廃棄されてきましたが、バイオ燃料などに活用できることからCO₂排出量削減と資源循環型社会の実現に寄与する資源として期待されています。今回の実験では、注文商品の受取時に専用の回収容器(リターナブルボトル)を配布するとともに、廃食用油入りの容器を収集・回収してリサイクル処理を行います。回収容器は洗浄して繰り返し使用できるため、ゴミが発生しないのが特徴です。

この専用の回収容器を使ったイトヨーカ堂の廃食用油の回収は、日本初のものであります。イトヨーカ堂は今後もお客様とともに、身近でわかりやすいリサイクルの仕組みの構築を目指します。



専用リターナブルボトル

社会・環境活動

2月17日

「水素燃料電池」で走る 小型トラックでの店舗配送を開始

ヨークベニマルは、福島県とトヨタ自動車株式会社とが推進している「水素を活用した新たな未来のまちづくり」に参画し、2023年2月から郡山市内中心に「水素燃料電池小型トラック」での店舗配送を開始しました。

このトラックは、水素を燃料として電力に変換し動力として、CO₂を排出せず、水のみを排出し走行する「環境にやさしい点」が特徴。水素・技術を活用し、小売、物流、インフラ関連、自動車メーカーが一体となって新たな未来のまちづくりに取り組んでいます。

この社会実装検証を通じて、水素燃料電池トラックの運行管理およびエネルギーマネジメントシステムの構築(水素ステーションの最適なオペレーションづくり)と、カーボンニュートラルを進めてまいります。



社会・環境活動

2月18日

「イトヨーカドーとくし丸」 稼働100号を達成

イトヨーカ堂は、日常生活に必要な、お買物にお困りの方が増えている社会課題の解決に向けた取り組みとして、移動販売車「イトヨーカドーとくし丸」第1号を2020年4月に稼働しました。以来、順次導入店舗・台数を拡大し、このほど稼働100号を達成しました。今後も、地域と連携し高齢者見守り活動の事業の一環として積極的にサービス提供していきます。



新サービス

2月20日

より安全・安心な取り引きへ向け 「ATM認証コード発行サービス」 提供開始

セブン銀行は、全国のセブン銀行ATMを活用した「ATM認証コード発行サービス」を2023年2月20日より開始しました。このサービスは、キャッシュカードと暗証番号認証によって、ATM画面上に発行したQRコード(※)をスマホアプリで読み取ることで、口座とスマホの所有者の一致を確認し、より安全安心なサービスを実現します。

※QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。

セブン銀行
「ATM集金」で業務効率化が評価
金融機関賞を受賞

セブン銀行とセブン・ペイメントサービスが提供する「ATM集金」が、金融分野で先進的な取り組みを評価する「Japan Financial Innovation Award 2023」にて金融機関賞を受賞しました。「ATM集金」は、専用スマートフォンアプリを用いてセブン銀行のATMで原則24時間365日、売上金などの現金を入金できるサービスです。ATMを通じて手軽に集金できることで業務効率化を図れる点が評価されました。



赤ちゃん本舗
アカチャンホンポ商品が
6つの部門で受賞

株式会社ベネッセコーポレーションが運営するWEBメディア・雑誌企画「たまひよ赤ちゃんグッズ大賞2023」において、アカチャンホンポの6つの商品が受賞しました。おしりふき部門第1位、水99% Superシリーズは、10年連続1位を獲得。肌へのやさしさや拭きやすさなど、価格以上の品質が評価されました。



赤ちゃん本舗
ビジョンの哺乳器回収
リサイクル実証実験を全店に拡大

赤ちゃん本舗とビジョン株式会社は、資源の循環利用を目的に、家庭で使わなくなったビジョンの哺乳器を回収し、資源リサイクルする実証実験を2022年3月から開始しています。2023年3月より取り組みを全国124店舗に拡大し、素材別の分別が難しかった哺乳器のリサイクルを促進します。



セブン&アイ・フードシステムズ
全国318店舗の店頭募金を
国連WFPに寄贈

セブン&アイ・フードシステムズは、国際連合世界食糧計画WFP協会（以下、国連WFP協会）に店頭募金の全額104万2026円を寄贈し、感謝状を授与されました。国連WFP協会は、飢餓をなくすことを使命に活動する国連唯一の食料支援機関です。今後も「食」に関連した活動に賛同し、支援を続けてまいります。



セブン・イレブン・ジャパン
環境に配慮した容器導入
約800トンのCO2削減を目標に

セブン・イレブン・ジャパンは、2023年夏をめぐりに、全国の店舗にてお弁当やお惣菜で使用する容器を石油由来のインクや着色剤を削減した新容器に変更します。新容器を採用することで、容器本体と容器の製造工程などにおいて排出されるCO2を削減。削減できるCO2の排出量は、年間約800トンを見込んでいます。また、着色工程を削減することで容器のリサイクルもより容易になりました。全国導入に先駆け、2022年12月から北海道のセブン・イレブンにて検証をスタート。容器形状の一部変更するなど、物流効率の向上も実現しました。今後も店舗全体で環境負荷低減を推進していきます。



ニッセン
サステナブルなブランド
「RiFUKURU」が誕生

ニッセンは、サステナブルなアパレル・雑貨を取り扱う新ブランド「RiFUKURU（リフル）」を立ちあげました。「RiFUKURU」は「残ったモノを価値あるモノにかえて、福をみんなに。」をコンセプトとして、①廃棄されていたものに新たな価値を与えるアップサイクル ②日本の生地メーカーや縫製工場と協働での商品づくり ③環境に配慮した資材を使いCO2排出量削減への貢献や極力ゴミが出ない買物体験の提供、の3つのテーマに取り組みます。少しのキズや汚れ、色ムラが理由で廃棄された生地などを発掘し、生まれ変わらせる。そんなふうにより、一つひとつの生地のストーリーを楽しむような商品を順次、拡大展開していく予定です。



セブン&アイHLDGS.
トルコ南東部の地震被害への
募金の寄付および企業寄付

セブン&アイHLDGS.は、トルコ南東部を震源とする地震により甚大な被害が生じている被災地救援のため、全国の店舗において募金を行いました。募金活動には、セブン・イレブン・ジャパン、イトーヨーカ堂、セブン&アイ・フードシステムズをはじめとするセブン&アイグループ各社が参加しました。店頭およびWEB募金にて、総額2億431万9630円の寄付をいただきました。お客様からの募金とともに、企業寄付として約40万ユーロ（約5700万円）を、日本の公式支援窓口である国連UNHCR協会を通じて国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）へ、国連WFP協会を通じてWFP国連世界食糧計画へ寄付しました。

募金総額	2億431万9,630円	セブン&アイ・ホールディングスからの企業支援 支援内容：約40万ユーロ
送金先	国連UNHCR協会を通じて国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)	7-Eleven, Inc. からの企業支援 支援内容：10万ドル
	国連WFP協会を通じてWFP国連世界食糧計画	7-Eleven International LLCからの企業支援 支援内容：2万ドル
実施店舗	全国のセブン&アイグループ 合計 22,460店舗 ※2023年2月末日時点	

セブン銀行
ATMが手続き・認証の窓口へ
「在留カード情報届出サービス」
先行利用開始

セブン銀行は子会社の株式会社ACSIIONと共同し、3月31日より日本に居住する外国籍のお客様向けに、「在留カード情報届出」サービスの先行利用を計4つの金融機関で開始しました。セブン銀行のATMで在留カードを読み取るなどの簡単な操作で、金融機関から定期的に求められる本人確認と最新情報の更新の届出を行えるようになります。

セブン&アイHLDGS.
2023年度はグループ18社
580名が入社

セブン&アイHLDGS.がオンライン形式でグループ全体の入社式を行い、2023年度はグループ18社580名が入社しました。入社式では井阪隆一代表取締役社長が力強く新入社員へメッセージを発信。今後は各社ごとに研修を行い、所属する業務の内容および社会人としての自覚を醸成していきます。



新店情報

3月31日(金)	4月17日(月)
旭川ロフト 北海道旭川市宮下通7丁目2番5号 イオンモール旭川駅前2階	門真ロフト 大阪府門真市松生町1番11号 三井ショッピングパークららぽーと門真1階
4月7日(金)	4月21日(金)
甲子園ロフト 兵庫県西宮市甲子園八番町1番100号 三井ショッピングパークららぽーと甲子園2階	草津ロフト 滋賀県草津市西沢川1丁目23番1号 エイスクエア南エリア アル・プラザ 草津2階
4月7日(金)	4月28日(金)
ヨークベニマル 常陸太田店 茨城県常陸太田市東部土地区画整理事業地内 1街区1画地	ヨークベニマル 友部スクエア店 茨城県笠間市住吉1365番1号
4月14日(金)	5月2日(火)
つかしんロフト 兵庫県尼崎市塚口本町4丁目8番1号 グンゼタウンセンターつかしん ひがしまち/南館2階	コスメロフト シャル鶴見店 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央1丁目1番2号 CIAL (シャル) 鶴見 4階

1月11日
イスラエルにセブン-イレブンが初出店
イスラエル最大の都市圏であるテルアビブに1号店を開店しました。地元のお客様の嗜好に合わせた伝統的なサラダや、地元産のソースを使った商品などを提供し、地域に密着した店舗を目指します。今後、イスラエル全土に店舗を拡大する予定です。
世界のセブン-イレブン店舗数：83,426店 (2023年1月末日時点)

